



私のターニングポイント

Vol.1

◆特集 「建築の仕事に漂着した」 広瀬みずきさん … P2・3

◆我孫子市男女共同参画の歩み … P4

今号から新しいシリーズをお届けします。
題して『私のターニングポイント』。女性が
プロとして仕事を全うする喜びと困難をレ
ポートしたいと思いました。その仕事に至
るまでの、人と、モノと、コトとの出会い。
そこにどんな岐路―ターニングポイントが
あったのか？それとも？
第一回は、我孫子市出身の一級建築士
広瀬みずきさん（37歳）取材しました。

建設の現場も含めた建築の世界はまだまだ典型的な男社会である。その中でハードワークしているパワフルな女性一級建築士、こんな我々の予断、思い込みは取材場所に現れた広瀬みずきの佇まいによって、気持ちよく裏切られた。背筋をすっと伸ばして、実に自然体なのである。

広瀬は「**建築の仕事に漂着した**」という言い方をする。その時々自分の気持ちに素直になり、その心に従って行動する。それが人やモノやコトとの出会いを生み、広瀬を建築の仕事へと押してゆく。それらはターニングポイントではなかったか？しかしこれは今だから言えること、しかも我々の言葉だ。広瀬は「**岐路で迷ったことはない、といいますか、今は岐路だ、という認識すらありませんでした**」と言いつつ、「自分の中にフツと風が吹いたり、電流が走ったりしたことに悪ノリしてきたことの連続が今日まで続いている」それではその風はどのように吹いたか？

桜橋

広瀬に聞いてみよう。「小学校の廊下に子ども新聞のニュースが張り出されていたんです。桜橋完成という記事で、隅田川に架かる特徴的なX字形の写真が目にとまりました。となりの男の子が、これ、僕のお父さんが造ったんだ、と言いました」広

瀬はその事実にあらためて驚く。「**自分か、人間が造っているんだ**」と。「自分の手では造れないもの——世の中にある様々なもの、ガラス一枚、建物ひとつ自分では造れないけど、それは結局人間が造っている。そう分かったとたん、何か無性にその仕事が羨ましくなっちゃってしまっ……」その建設会社のCM「地図に残る仕事」という言葉も広瀬の心に深く残ることとなる。



東京都台東区今戸と墨田区向島との間で隅田川兩岸の「隅田公園」を結ぶ歩行者専用橋
(写真提供：台東区)

母親

広瀬は絵や工作の好きな少女だった。「勉強しなさいとか、こういう絵を描きなさいとかいうような母親ではなかったんですが、食事中の姿勢は正しく！とか、そういうことだけはうるさく言われました」また、「私

がやろうと思っっていることに対して、その途を狭める要素があると、一生懸命それを排除してくれる」とも。こういうことがあったという。展覧会に出す水彩画を制作中、度重なる先生の指導により、広瀬がすっかりやる気を失い「もう絵を描きたくない！」というところまでいったとき、母親が先生に入れた電話。「娘に何も言わないでください。好きに描いているんですから、放っておいてください」以降、広瀬の自由に絵が描ける環境ができたことはいまでもない。

京都に住みたい

それはひとつの流れだったか、新聞記者、雑誌編集者、コピーライター、洋画字幕翻訳家など、なりたい職業を思い巡らしながら、理系が得意の広瀬が大学を選んだのは建築科。絵が好きだということも影響したらしい。

大学卒業後、広瀬は建物のコンサルティング会社に入る。仕事で京都に通ううち、「京都に住みたい！」と思う。突然！の印象だが、広瀬にしてみれば必然の自然な流れの過程なのだろう。「本当に好きだと思ったところには、旅をするだけでは物足りなくて、時間をかけてそこに住んでみたくなるんです。長野県の松本がそうでしたし、京都にちよこ

行っているうちに住んでみたいと思っただけです。だったら転職と同時にやっちゃえ！と思って……別に京都に職があったわけではないんですけど」京都に住むために転職を計り、そのための武器としての一級建築士資格取得のための勉強に邁進し、見事資格を取ってしまうところが広瀬の広瀬たる所以だろう。

資格をもって京都の設計事務所に職を得た広瀬の仕事に京丹波町の中学校体育館がある。コンクリートの重量感と窓の縦方向のリズム感が調和しているこの建物には愛着があるという。広瀬が京都で手に入れたものは、仕事のほかに、京都の暮しぶりそのものだったようだ。「京都の同年代の女性は、東京ほどお金を使って遊ぶとか、着飾るといことはしないけど、豊かに暮すんですよ。とにかく料理は自分達でやる、職場のお昼に雑祭りだからといって、ちらし寿司を作ってきてくれたりとか、お酒を飲もうというときも肴を用意して鴨川の畔でとか。東京で働いていた私にとっては、手づくりで暮しを豊かにしていくというのが新鮮でした」

ミヨ一大橋

「東京に戻って、ゼネコンの設計部門で働くようになってから、数年後、ミヨ一大橋（フランス）の映像を見た」この手間を絶対惜しまない。その違いは気づかない場合もあるけど、完成品に心地よい緊張みたいなものが必ず波動のようにでてくるんですね。私はそういう人達と仕事をしてきました」

子育てとということ

実は広瀬はこの取材の直前に、めでたく長男を出産したのだった。「仕事と子育てを一緒にしてはいけないけど」と子育て観を語る。「仕事で夢を実現するとか、自己実現なんていわれますが、そうではなく、本来、自分のもっている知力、技術とか、体力、心を駆使して目の前の人に尽すということではないかと考えています。子育ても同じように、そういう気持ちでわが子に向き合って行きたいと思います」

しばらくは徹底的に子どもと向き合い子育てに専念するという。同じ建築関係のパートナーとともに近い将来一緒に仕事をするようになるだろうとも。そのための基盤はすでにできているとも。



雲の上にかかるミヨ一大橋 フランス南部アヴェイロン県タルン川にかかる民営有料の高架高速道路

てしまった。見たら行かないと気がすまないんです。子どもみたいです」が」

フランス南部の渓谷に架かる、主塔の高さ世界一（東京タワーより高い343m）のミヨ一大橋の圧倒的映像が広瀬を突き動かすことになる。橋を見るために三ヶ月の長期休暇を社に願ひ出るようになるが、当然、すぐに、はいそうですかとばかり受理されるはずもない。

「行くが故の苦労とか、不自由とかも絶対あるはずなんですけど、そういうことは明日の私が解決する、今日はとにかく決断しちゃおう、というので、まず素直に行きたいという気持ちを上司に言ってみよう」と橋を見たという強い気持ちが動かしただのか、幸いにも柔軟な上司と、いく

建築という仕事

東京に戻った広瀬は、大使館規模リニユーアルとか劇場設計とかの大型プロジェクトに参画することになる。一般に男社会とみられがちなこの世界は広瀬にとってどうであったか？

「実際に楽な仕事ではないし、徹夜なんかも当然あるわけです。だけど私の感覚としては、子どもがテレビゲームに夢中になっている間に朝が来ちゃったと、けっこうそんな感じなんです。テレビゲームも簡単じゃつまらない、面をクリアしていくと、次々と予期せぬ難題が出てくるのが面白くて、そういう感覚だったので、

日本人のものづくり

「私の周りでは、こういう人達がものをつくっています。日本人がものをつくるときの『詰め』の素晴らしさです。海外でも80〜90%まではだいたいもってける。日本人はこの90%を100%にもっていき作業に倍の労力と神経を使って完成させる。そ

広瀬みずき 一級建築士
1973年我孫子市生まれ。浦和明の星女子高等学校卒業後、東京理科大学工学部建築学科卒業。建築設計事務所、ゼネコン設計部の仕事に従事。2009年、晴設計一級建築事務所を開設。著書に『建築の仕事につきたい!』（中経出版）がある。



我孫子市 男女共同参画都市宣言

21世紀の扉が開いた今、私たちは輝く未来を創りたい。
自分を生かし、他人を認め、女も男も共にいきいきした暮らしができるまち
我孫子にするために、ここに「男女共同参画都市」を宣言します。

- 1 私たちは、男女がお互いの人権を尊重する我孫子にします。
- 2 私たちは、社会のあらゆる分野で、男女が平等に参画する我孫子にします。
- 3 私たちは、男女が一人ひとり自立し、責任を分かち合う我孫子にします。

2001年（平成13年）6月26日

「男女共同参画都市宣言」から10年を経たのを機に、市のこれまでの取り組みを振り返りました。市では計画により、「子育て支援」「DV相談」「男女共同参画の啓発」などの諸事業を展開しています。詳しくは、その都度、『広報あびこ』に掲載しています。

政策・方針決定過程への女性の参画について、国では、2020年までに女性割合30%の数値目標を掲げています。我孫子市の現状は表のとおり、分野によっては0%で、まだまだ課題も残ります。引き続き、地道な取り組みが必要です。

市はこんなふうに取り組んできました

- 1992年 4月（平 4）企画課に女性施策担当を設置
- 1999年 3月（平11）我孫子市男女共同参画プラン策定（平成11年度～平成20年度）
- 1999年 6月（平11）男女共同参画社会基本法公布（国）
- 2001年 3月（平13）我孫子市男女共同参画情報紙『かがやく』創刊
- 2001年 6月（平13）我孫子市男女共同参画都市宣言（千葉県初）
- 2002年 11月（平14）我孫子市男女共同参画宣言都市奨励事業「あびこ男女共同参画フェスタ2002」開催
- 2006年 7月（平18）我孫子市男女共同参画条例施行
- 2009年 3月（平21）我孫子市男女共同参画プラン（第2次）策定（平成21年度～平成30年度）



10年前と比べると【政策・方針決定過程への女性の参画】

	平成13年（6月都市宣言）		平成23年4月1日現在	
自治会長	10名 / 171名	5.8%	18名 / 181名	9.9%
市立小・中学校PTA会長	0名 / 19名	0.0%	2名 / 19名	10.5%
市立小・中学校長	1名 / 19名	5.3%	3名 / 19名	15.8%
市議会議員	8名 / 30名	26.7%	6名 / 28名（欠員2）	21.4%
教育委員会	2名 / 5名	40.0%	2名 / 5名	40.0%
選挙管理委員会	1名 / 4名	25.0%	2名 / 4名	50.0%
監査委員会	0名 / 2名	0.0%	0名 / 2名	0.0%
固定資産評価管理委員会	1名 / 3名	33.3%	1名 / 3名	33.3%
農業委員会	0名 / 22名	0.0%	0名 / 19名	0.0%
審議会等の委員	236名 / 767名	30.8%	401名 / 931名	43.1%
家族経営協定の締結戸数	参考（平成14年）3戸		35戸 / 550戸	6.4%
市の管理職職員（課長補佐級以上）	18名 / 149名	12.1%	32名 / 217名	14.7%

※全体に占める女性の人数と割合を示しました。

■編集後記■

男女共同参画情報紙『かがやく』の創刊から10年が経ちました。この機会に表紙を一新しました。いかがでしょうか？
ご感想、ご意見をお待ちしています。（S）

■発行：我孫子市 ■発行日：平成23年8月 通巻21号

■編集：「かがやく」編集委員会

我孫子市市民生活部市民活動支援課男女共同参画室

〒270-1192 我孫子市我孫子 1858番地 TEL：04-7185-1752

地球環境保護のため再生紙を使用しています